

# Europe Trends

発表日：2021年8月25日(水)

## 風雲急を告げるドイツ選挙戦

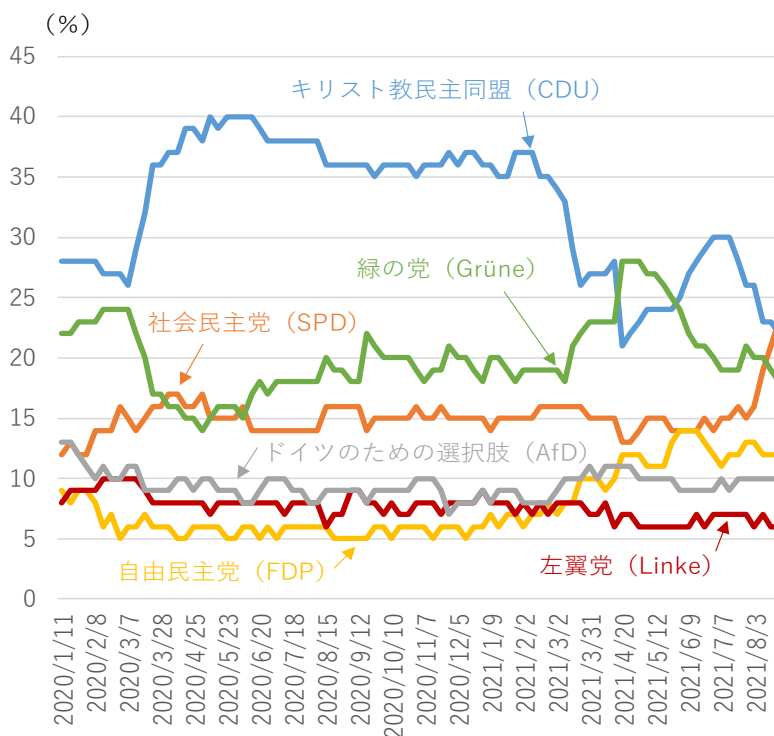
～SPD が CDU を逆転、政権奪取が視野に～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 首席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

- ◇ ドイツ連邦議会選挙まで約1ヵ月、猛烈な追い上げを見せる中道左派の社会民主党（SPD）は、逃げ切りを目指す保守系与党のキリスト教社会同盟（CDU）を支持率で逆転。このままの勢いでSPDが政権奪取に成功するか、CDUが首相候補のすげ替えなどの荒療治で党勢回復を目指すのか、選挙戦の行方から目が離せない。

約1ヵ月後に迫ったドイツ連邦議会選挙は波乱の展開となっている。第一党の座を巡る保守系与党・キリスト教民主同盟（CDU）と環境政党・緑の党との争いに割って入った中道左派の連立パートナー・社会民主党（SPD）がさらに支持を高めている。23日に発表されたINSAの調査でCDUとSPDの支持率が並び、24日に発表されたForsaの調査ではとうとうSPDがCDUを逆転した（図表1）。各調査によって多少の癖があるが、最新の世論調査の居所は、CDUとSPDが20%台前半の支持率で拮抗し、緑の党がやや遅れて17～19%で追う展開といったところだろう。

（図表1）ドイツの政党別支持率の推移

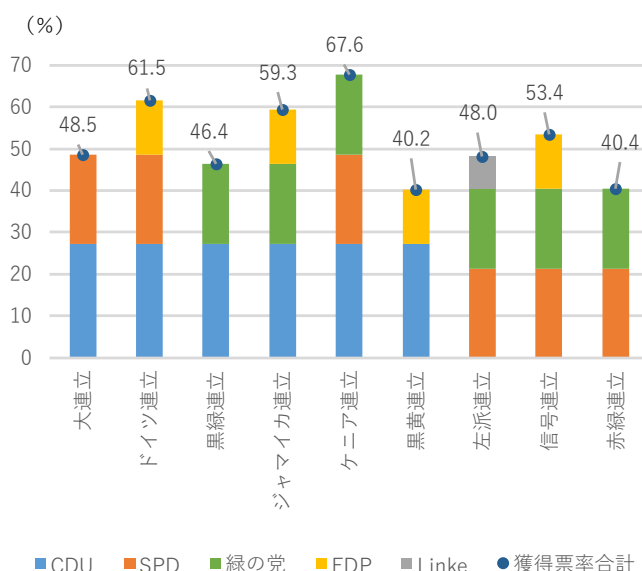


出所：Forsa資料より第一生命経済研究所が作成

各党の政策論争よりも、首相候補に対する評価が最近の世論調査の変動につながっている。緑の党の首相候補のベアボック共同党首は、党助成金の申告漏れ、経歴書の誤記載、著作での盗用や引用違反疑惑が相次いで発覚し、4月に首相候補に選出された直後の旋風が逆風変わった。CDUの首相候補のラシェット党首兼ノルトライン＝ヴェストファーレン州首相は、7月下旬に被災現場で笑みをこぼす姿が報じられて以降、求心力を失ったままだ。こうしたなか、SPDの首相候補のショルツ財務相兼副首相は、その実務能力が高く評価され、SPD浮上の推進力となっている。

このままの勢いで投開票日に突入すれば、SPDが政権を奪取する可能性が高まる。その場合の連立政権の組み合わせは、中道左派のライバルである緑の党、リベラル政党の自由民主党（FDP）を合わせた「信号連立」が最有力となる（図表2）。政策軸が異なるFDPはSPD主導の連立参加に必ずしも前向きではない。CDU、緑の党、FDPの3党による「ジャマイカ連立」も同時に検討されることになろう。SPDの支持回復により、緑の党、旧東ドイツの支配政党の流れを汲む左翼党（Linke）を加えた「左派連立」でも議会の過半数に届く可能性も出てきた。

（図表2）世論調査に基づくドイツ連立政権の獲得票率



注：1）その他と未回答を除外して再計算した支持率の合計

2）8調査会社の最新世論調査の平均値

出所：wahlrecht.de資料より第一生命経済研究所が作成

党勢低迷に歯止めが掛からない場合、CDUは選挙戦の立て直しを迫られる。CDU内の保守勢力やバイエルン州で活動する姉妹政党・キリスト教社会同盟（CSU）内には、ラシェット氏に代わる首相候補の擁立を求める声も浮上している。ラシェット氏に首相候補の座を譲ったCSUのゼーダー党首兼バイエルン州首相は最近、再参戦を睨んだとも受け取れる発言も行っている。このままSPDの勢いが続くか、緑の党に党勢再浮上の秘策があるのか、CDU・CSUの統一候補にゼーダー氏の参戦があるのか、選挙戦の行方から目が離せない。

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。